



水原郷病院から あがの市民病院へ 70年を経て、地域愛着病院を目指す

あがの市民病院

藤 森 勝 也

1. 地域愛着病院とは

「地域愛着」とは、「ヒトと地域を結ぶ情緒的な絆や繋がり」のことです。「地域愛着病院」とは、「住民と地域の病院との“心”のつながり」を考えています。「愛着」を評価する「物差し」は、「選好、感情、持続願望」などです。住民の皆様を選ばれる、良いイメージがある、将来にわたって“地域づくり”に役立つ頼りになる病院である、ことでしょう。当院は、1954年に旧水原町国保直営病院と水原郷伝染病院とを併設する形で発足しました。1958年に一部事務組合「水原郷病院」と改められ、2015年に新病院「あがの市民病院」を建築し、2024年で70周年を迎えました。順調な時があれば、逆風・厳しい状況もありました。その都度、市民の皆様、行政、新潟大学医学部、医師会、JA新潟厚生連、病院職員の皆様で、知恵を出し、汗を出して、病院を「継続」できたと考えています。さらに、80年、90年、100年を目指していきます。

2. 70年の「あゆみ」

1954年開院時、中澤耘平病院長時代は、50床から始まりました。寺田一郎病院長が引継ぎ、1961年には180床に、1970年には人工透析を開始し、230床の「総合病院」となりました。1979年に312床とし、救急告示病院になり、1984年に訪問看護を開始しました。1988年には老人保健施設「五頭の里」を開設、350床の総合病院となりました。寺田一郎病院長は30年病院を運営されました。その後、関根理病院長9年間、川田一也病院長、三浦義昭病院長6年間、に引き継がれました。その後、尾崎進病院長になりました。2010年から、JA

新潟厚生連の指定管理が始まりました。2015年に新病院建築、あがの市民病院と病院名を変更し、250床とし、地域医療・連携センター、糖尿病・生活習慣病予防治療センターを開設しました。2017年から、私が第7代病院長に就任しました。2018年に消化器病センターを開設し、2019年に骨関節疾患センターを開設しました。2020年に介護医療院を開院し、196床としています。2022年には、全国国民健康保険診療施設協議会の「地域医療現地研究会」を、当院を会場として開催いたしました。2024年には、オーダーリングから本格的な電子カルテシステムに移行しております。

2015年に新病院を建築、地域医療構想の中で、2020年に療養病床を介護医療院としました。2017年から地域包括ケア推進のため、隔月で市内介護施設との連携会議、あがの介護・病院連携会議を開催し、地域の医療介護施設を紹介する病院広報誌（スワンだより）を年4回発行してきました。

2017年から「初期臨床研修医の教育と成長」を病院運営目標に掲げ、「教育」に尽力してきました。その結果、約8年間で145名程の初期臨床研修医が研修しています。

病院経営では、2019年から5期連続黒字化しています。2017年から2023年までの7年間で約5千万円の黒字です。行政である阿賀野市と指定管理のJA新潟厚生連が、毎月定期的に協議を重ねている成果であると考えています。

これからも「地域包括医療・ケア」を展開する「地域密着型」病院として、職員一同、邁進していく所存です。皆様からは、「地域愛着病院」として、今後とも変わらぬご支援の程、お願い申し

上げます。

(新発田北蒲原医師会報、令和6年(2024)
12月号、1ページ、一部改変)

3. 70周年記念祝賀会・式典、病院祭

2024年9月22日(日)に、「あがの市民病院創立70周年記念式典・祝賀会」を新発田市月岡温泉にある「泉慶」において開催いたしました。受付、記念写真撮影、記念式典、祝賀会の内容でした。

11月2日(土)に、「あがの市民病院創立70周年記念病院祭」を開催いたしました。TVでお馴染みの増子ゆかり医療の広場アナウンサー、中村真理子医療の広場ナビゲーターの司会のもと、まず開会式が行われました。病院長あいさつ、2人の来賓あいさつ、テープカットを行いました。来賓の挨拶は、加藤博幸阿賀野市長、山崎勝喜JA新潟かがやき常務理事からいただきました。その後、キッズダンス、タヒチアンダンス、フラダンスが行われ、会場内は活気と熱気、笑顔に包まれました。場所を移して、お子様向け風船配布、看護師・医師なりきりキッズ撮影会、健康チェック、体力チェック、血管年齢チェック、病院年表とその当時の写真展示、クイズなど、イベントが盛りだくさんでした。後半では、2階講堂にて、「地域医療フォーラム」が開催されました。病院のこれまでとこれから、病院への期待・思い・想いなどを5人のシンポジストからいただきました。シンポジストは、加藤博幸阿賀野市長、香山誠司副院長、成田妙子介護施設長、加藤有三自治会長、鈴木基子ピアノボランティアの5名でした。それぞれの方が、70年の歴史の中で、かかわりを持ち、病院がよりよく継続していけるように働きかけてくださっている様子を伺えました。職員一同、これからも地域住民に役に立つ病院、地域愛着病院となるべく取り組んでいかねばならないことを再認識したフォーラムでした。

(新潟県医師会報、令和7年(2025)1月号、
24ページ、一部改変)

4. 第4回日本地域医療学会のご案内

第4回日本地域医療学会を2025年10月11日(土)、12日(日)の2日間、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催いたします。テーマ

は、「地域で学び、地域に活かし、みんなで育み紡ぐ、未来希望の地域医療」で、サブテーマは、「東西両医学の調和と患者中心の医療」です。日本は、超高齢・少子・人口減少社会で、財政危機に直面しています。このような中で医療を継続していくためには、住民が自ら健康に取り組み、ご近所さんの助け合(愛)い、が欠かせません。高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、住み慣れた地域で、可能な限り自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう「地域の包括的な支援・サービス提供体制を構築」する「地域包括医療・ケア」の深化が求められています。医療人は、それぞれの地域で住民と医療を通して学び・交流し、この学びを住民・行政と連携し、地域に活かし続けることが求められています。「活私開公」です。医療関係者は、ある時は教え、ある時は学び、医療人生を紡いでいます。

「地域医療」は、住民・行政・医療人が三位一体となって、担当する地域の医療資源を最大限活用し、継続的に「保健・医療・介護(福祉)の包括的なサービス」を計画・実践・評価するプロセスですが、やりがいのあるタスクと思っています。学会員でなくても気軽にご参加いただけます。手作り感ある学会ですが、多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

**地域で学び
地域に活かし
みんなで育み紡ぐ
未来希望の
地域医療**

第4回 日本地域医療学会 学術集会

会期 2025年10月11日(土)・10月12日(日)
会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
新潟市中央区万代島6-1
学会長 藤森 勝也 JA新潟厚生連 あがの市民病院長
URL <https://www.jach.or.jp/4gakujyutu/>

道徳の創り

一般社団法人日本地域医療学会
Japanese Association of Community Healthcare
JACH